

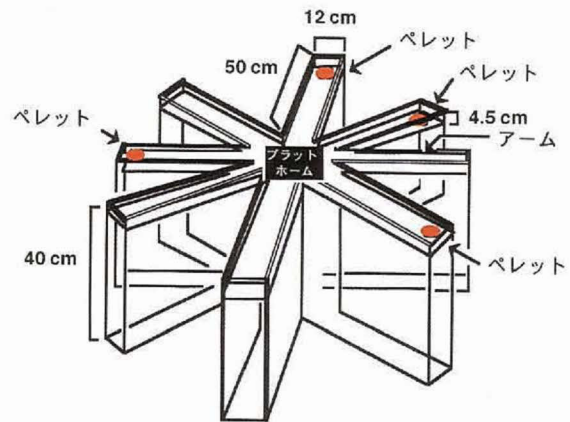


氏名 亀井 千晃 (かめい ちあき) 1945年生
 所属 大学院自然科学研究科 (薬学系)・総合薬学科・教授
 Tel 086-251-7939 (ダイヤルイン)
 Fax 086-251-7939
 E-mail kamei@pheasant.pharm.okayama-u.ac.jp
 HP <http://www.pharm.okayama-u.ac.jp/doc/lab/yakubutsu/>

ひとこと：中枢神経系作用薬およびアレルギー疾患治療薬に関する薬理学研究を行っています。中枢神経系に関する研究では、痴呆やてんかんに有用な薬物の開発に取り組んでいます。アレルギー疾患に関する研究では、最近ペパーミント抽出物が花粉症に有効であることを見出し、注目されています。

1. 学習および記憶に関する研究

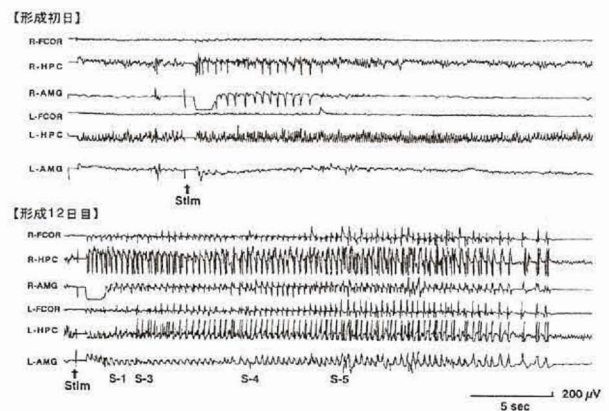
新しい抗痴呆薬の開発を目指して、学習および記憶に及ぼすヒスタミンならびにヒスタミン関連化合物の効果を研究し、数多くの成果をあげています。



学習・記憶の実験に用いられる八方向放射状迷路

2. 抗てんかん薬の開発研究

キンドリング(燃え上がり現象)という手法を用いて、ヒスタミンのH₃拮抗薬が、新しい作用メカニズムを有する抗てんかん薬としての可能性を見出しています。



キンドリング形成によるラットの脳波変化

3. 睡眠導入薬の開発研究

睡眠障害モデルの作製および電気生理学手法の導入により、抗ヒスタミン薬が睡眠導入薬として有用であること、および各種生薬成分の睡眠導入作用を検討しています。

4. アトピー性皮膚炎モデルの開発

アトピー性皮膚炎の主な症状である痒みと、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬およびH₃作用薬の効果に関する研究を行っています。プロポリスや羅漢果がアトピー性皮膚炎の痒みに有用ではないかという成績も見出しています。



マウスの痒み行動を測定する自動搔痒解析装置

キーワード：ヒスタミン、アレルギー、睡眠障害、痴呆、アトピー性皮膚炎、花粉症、H₃拮抗薬

キーワード用語集（龜井千晃先生）

ヒスタミン・・・主にマスト細胞に存在し、アレルギー性疾患すなわち花粉症、アトピー性皮膚炎、気管支喘息の原因物質のひとつである。

アレルギー・・・体外からの侵入物に対し、異常な反応を示す現象で、発疹、痒み、発熱などの症状として表われる。
アレルギーの原因となる物質はアレルゲン（抗原）と呼ばれる。

睡眠障害・・・入眠困難、睡眠維持障害または熟眠感の欠如といった症状を示す。
最近薬局で抗ヒスタミン薬であるジフェンヒドラミン（ドリエル）が発売されている。

痴呆・・・アルツハイマー型痴呆と脳血管性痴呆に分類される。
痴呆に共通する最も一般的な症状は記憶の障害である。

アトピー性皮膚炎・・・ダニの死骸などが原因で生ずるアレルギー性の慢性皮膚炎。
痒み、湿疹、紅斑などの症状が特長である。

花粉症・・・眼の痒み、くしゃみ、水のようなサラサラな鼻水および鼻づまりを主症状とするアレルギー疾患。
スギ花粉やブタクサが原因物質である。

H₃拮抗薬・・・ヒスタミンの遊離を促す薬物であるが、まだ臨床応用はされていない。